

# Closed topological vertex の 量子ミラー曲線と $q$ -差分型 Kac-Schwarz 作用素

高崎金久 (近畿大学) 中津了勇 (摂南大学)

無限可積分系セッション 2016 年 9 月 16 日

closed topological vertex の量子ミラー曲線が  $q$  差分型 Kac-Schwarz 作用素として解釈できることを示す. 同様の解釈はコニフォルドをはじめとする strip geometry 上の位相的弦理論の開弦振幅全般にもあてはまる.

Ref: K. T. and T. Nakatsu,  $q$ -difference Kac-Schwarz operators in topological string theory, arXiv:1609.00882 [math-ph]

## 2次元量子重力理論の Kac-Schwarz 作用素

$(a, b)$  型弦方程式  $[P, Q] = 1$  ( $P, Q$  はそれぞれ階数  $a, b$  の常微分作用素) の解は佐藤グラスマン多様体の点  $W$  に対応する。 $W \subset V = \mathbb{C}((z^{-1}))$  とみなせば,  $W$  は交換関係  $[A, B] = 1$  を満たす常微分作用素

$$A = \frac{1}{bz^{b-1}} \frac{d}{dz} + z^a + \text{低次の項}, \quad B = z^b$$

の対 (Kac-Schwarz 作用素) によって

$$AW \subset W, \quad BW \subset W$$

という条件で特徴付けられる。

(V. Kac and A. Schwarz, Phys. Lett. **B257** (1991), 329–334;  
A. Schwarz, Modern Phys. Lett. **A6** (1991), 2713–2725)

## Hurwitz 数に対する Kac-Schwarz 作用素の変種

各種の Hurwitz 数の母関数は KP 階層の  $\tau$  関数になる. 対応するグラスマン多様体の点  $W \subset V = \mathbb{C}((x))$  ( $x = z^{-1}$ ) は交換関係  $[A, B] = B$  を満たす無限階微分作用素の対  $A, B$  によって

$$AW \subset W, \quad BW \subset W$$

という条件で特徴付けられる. さらに,  $A, B$  は  $V$  上の可逆な無限階微分作用素  $G = G(x, D)$  ( $D = x \frac{d}{dx}$ ) によって

$$A = -G \cdot D \cdot G^{-1}, \quad B = G \cdot x^{-1} \cdot G^{-1}$$

と表せる.

例 (2重 Hurwitz 数の場合)  $G = Q^D e^{\beta(D-1/2)^2} \exp \left( \sum_{k=1}^{\infty} c_k x^k \right)$

## Hurwitz 数に対する Kac-Schwarz 作用素の変種 (続き)

$G$  は  $W$  の基底 (admissible basis)  $\{\Phi_j(x)\}_{j=0}^{\infty}$  の生成作用素である.  $\Phi_j(x)$  は

$$\Phi_j(x) = Gx^{-j}, \quad j \geq 0$$

と表されて,

$$A\Phi_j(x) = j\Phi_j(x), \quad B\Phi_j(x) = \Phi_{j+1}(x)$$

という方程式を満たす. 最低次の方程式  $A\Phi_0(x) = 0$  は Hurwitz 数の量子スペクトル曲線の方程式に一致する.

(A. Alexandrov, Comm. Math. Phys. **338** (2015), 195–249;  
A. Alexandrov, D. Lewanski and S. Shadrin, arXiv:1512.07026  
[math-ph])

## 位相的弦理論における Kac-Schwarz 作用素の変種

$\mathbb{C}^3$  やコニフォールド (resolved conifold) など, ある種の 3次元局所トーリックカラビ-ヤウ多様体の上の位相的弦理論の開弦振幅の母関数は KP 階層の  $\tau$  関数になる. この場合のグラスマン多様体の点  $W$  の基底  $\{\Phi_j(x)\}_{j=0}^{\infty}$  の生成作用素  $G$  は  $q$  差分作用素  $G = G(x, q^D)$  ( $D = x \frac{d}{dx}$ ) になる.

$\mathbb{C}^3$  の場合:

$$G = \prod_{i=1}^{\infty} (1 - q^{i-1/2} x)^{-1}$$

コニフォールドの場合: (ケーラーパラメータを  $Q$  とする)

$$G = \prod_{i=1}^{\infty} (1 - Qq^{i-1+D})^{-1} \cdot \prod_{i=1}^{\infty} (1 - q^{i-1/2} x)^{-1}$$

## 位相的弦理論における Kac-Schwarz 作用素の変種 (続き)

$A, B$  を

$$A = G \cdot q^{-D} \cdot G^{-1}, \quad B = G \cdot x^{-1} \cdot G^{-1}$$

と定義すれば,  $A, B$  は  $q$  差分作用素で, 量子トーラス関係式  $AB = qBA$  に従う.  $\Phi_j(x) = Gx^{-j}$  は

$$A\Phi_j(x) = q^j \Phi_j(x), \quad B\Phi_j(x) = \Phi_{j+1}(x)$$

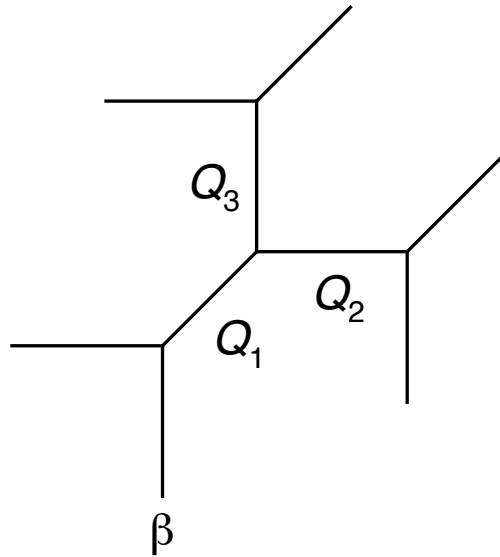
という方程式を満たす. 最低次の方程式  $A\Phi_0(x) = \Phi_0(x)$  は位相的弦理論の量子ミラー曲線の方程式に一致する.

コニフォールドの場合:

$$A = q^D (1 - q^{1/2} x (1 - Qq^D)), \quad B = (1 - Qq^D)^{-1} \cdot x^{-1}.$$

(J. Zhou, arXiv:1207.0598 [math.AG])

今回の結果：closed topological vertex の場合



外線の1つに分割  $\beta$  を指定して得られる開弦振幅  $Z_\beta$  (を正規化したもの) の母関数  $\tau(\mathbf{x}) = \sum_{\beta} s_{t_\beta}(\mathbf{x}) Z_\beta / Z_\emptyset$  は KP 階層の  $\tau$  関数になる.

1. 生成作用素は次のようになる：

$$G = \prod_{i=1}^{\infty} (1 - Q_1 Q_2 q^{i-1+D}) \cdot \prod_{i=1}^{\infty} \frac{(1 - Q_1 q^{i-1/2} x)(1 - Q_1 Q_2 Q_3 q^{i-1/2} x)}{(1 - q^{i-1/2} x)(1 - Q_1 Q_3 q^{i-1/2} x)}.$$

今回の結果：closed topological vertex の場合（続き）

2.  $A, B$  は次のようになる：

$$\begin{aligned} A &= q^{-D} \\ &\times \left( (1 - Q_1 q^{1/2} x (1 - Q_1 Q_2 q^D)^{-1}) (1 - Q_1 Q_2 Q_3 q^{1/2} x (1 - Q_1 Q_2 q^D)^{-1}) \right)^{-1} \\ &\times (1 - q^{1/2} x (1 - Q_1 Q_2 q^D)^{-1}) (1 - Q_1 Q_3 q^{1/2} x (1 - Q_1 Q_2 q^D)^{-1}), \end{aligned}$$

$$B = (1 - Q_1 Q_2 q^D) \cdot x^{-1}.$$

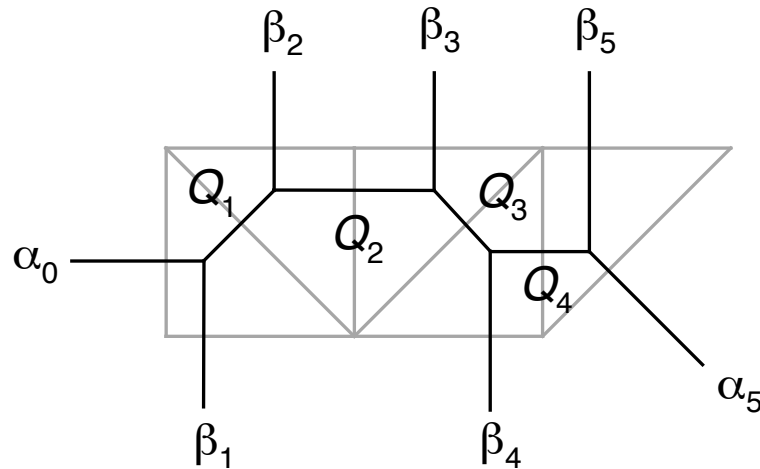
3.  $A$  は次の形に書き直せる：

$$\begin{aligned} A &= q^{-D} \left( (1 - Q_1 Q_2 q^{D-2} - Q_1 q^{1/2} x) (1 - Q_1 Q_2 q^{D-1} - Q_1 Q_2 Q_3 q^{1/2} x) \right)^{-1} \\ &\times (1 - Q_1 Q_2 q^{D-2} - q^{1/2} x) (1 - Q_1 Q_2 q^{D-1} - Q_1 Q_3 q^{1/2} x) \end{aligned}$$

これから昨年別の方法で得た量子ミラー曲線が復元できる。



## 今回の結果：strip geometry の場合



$n$  番目の頂点から出る垂直の外線に分割  $\beta$  を指定して得られる開弦振幅  $Z_{n,\beta}$  (を正規化したもの) の母関数  $\tau_n(\mathbf{x}) = \sum_{\beta} s_{t\beta}(\mathbf{x}) Z_{n,\beta} / Z_{n,\emptyset}$  は KP 階層の  $\tau$  函数になる.

結果を述べるために，記号を導入する：

$$\sigma_n = \begin{cases} +1 & n \text{ 番目の頂点から出る外線が上向きするとき} \\ -1 & n \text{ 番目の頂点から出る外線が下向きするとき} \end{cases}$$

$$Q_{mn} = Q_m Q_{m+1} \cdots Q_{n-1}$$

今回の結果：strip geometry の場合（続き）

1. 生成作用素は  $G = H \cdot \prod_{i=1}^{\infty} (1 - q^{i-1/2}x)^{-1}$  と表せる. ここで

$\sigma_n = +1$  のとき

$$H = \prod_{m < n} \prod_{i=1}^{\infty} (1 - Q_{mn} q^{i-1+D})^{\sigma_m} \cdot \prod_{m > n} \prod_{i=1}^{\infty} (1 - Q_{nm} q^{i-D})^{-\sigma_m}$$

$\sigma_n = -1$  のとき

$$H = \prod_{m < n} \prod_{i=1}^{\infty} (1 - Q_{mn} q^{i-D})^{\sigma_m} \cdot \prod_{m > n} \prod_{i=1}^{\infty} (1 - Q_{nm} q^{i-1+D})^{-\sigma_m}$$

今回の結果：strip geometry の場合（続き）

2.  $A, B$  は次のようになる：

$$A = q^{-D}(1 - q^{1/2}xR), \quad B = (xR)^{-1} = R^{-1} \cdot x^{-1}$$

ここで

$$R = \prod_{m < n} (1 - Q_{mn}q^{\sigma_n D})^{-\sigma_m \sigma_n} \cdot \prod_{m > n} (1 - Q_{nm}q^{-\sigma_n D})^{-\sigma_n \sigma_m}$$

この結果から、以前別の方法で得た量子ミラー曲線が再現できる。